



令和4年度も始まりました！桜をはじめ、植物が次から次へと花を咲かせています。お花のリレーですね。コロナウイルスからも卒業して、晴れやかに春を迎えたかったのですが、そうは問屋がおろしませんでした。With コロナをしながら今年度もジオパークの楽しさを伝えていきたいと思えます。

海岸の松の秘密

1. まつぼっくりと山陰海岸ジオパーク

春のお花の季節にまつぼっくりとは季節はずれと思われることでしょう。しかも、写真1は、クリスマスツリーです。海と大地の自然館では毎年、まつぼっくりを使ったクリスマス飾りづくり講座を開催しています。ジオパークと関係があるの？と疑問に思われた方もいるかもしれませんがね。当館の裏庭にはクロマツのまつぼっくりが一年を通してたくさん落ちています（最近シカのふんもよく落ちていますので要注意です）。ものづくりをきっかけに自然とふれあう機会にしようというのも目的の一つです。実はそれだけではありません。松の木と山陰海岸との関係、大地と植物のつながりを皆さんにも知っていただく機会になればという思いも込められているのです。海岸沿いの当館の裏庭に松が生育する理由があります。



写真1. 普及講座で作成したクリスマスリース
左：テーダマツのまつぼっくりを使用
右：クロマツのまつぼっくりを3つ使用

2. 日本のまつぼっくりと世界のまつぼっくり

はじめに松の種類について紹介します。写真1の左側のクリスマス飾りは一昨年に作成したものです。北アメリカに生育するテーダマツという種類の松のまつぼっくりです。写真1の右側はクロマツのまつぼっくりを3つ組み合わせたものです。テーダマツとクロマツでは大きさが倍以上違います。他にも北アメリカにはダイオウショウという名前からして大きそうなマツがあります。テーダマツもダイオウショウも葉の長さは20~30cmもあり、ダイナミックさを感じます。一方、日本で馴染み深いのはクロマツ



写真2 ヒマラヤスギのまつぼっくり

やアカマツですが、世界的な分布は日本、朝鮮半島、中国北部と限られています。他にもアジアには、ヒマラヤスギというバラの花のようなまつぼっくり（写真2）を实らせるものもあります。おなじみのまつぼっくりとは随分とちがいますね。名前にスギとつきますが、松の仲間です。また、アカマツは、クロマツよりも樹皮が赤く、山側に生育します。防風、防砂、防潮目的に海岸林として植栽されるのはクロマツです。このようにところ変われば、生育する松の種類もまつぼっくりの形も変わります。まつぼっくりの大切な役目は種子を風に乗せて遠くに飛ばすことです。山陰海岸ジオパークの海岸林のクロマツの種子も日本海の風に飛ばされていくのでしょね。飛ばされた種子から芽生えたクロマツは、白い砂浜と青々としたクロマツの美しい景色・
はくしゃせいしょう ふうこうめいび
白砂青松、風光明媚の海岸の風景を受け継ぎ、日本の原風景のひとつ、ふるさとの風景を築いていきます。

3. 大地と松ときのこと

次に海岸線のクロマツの秘密です。写真3は、山陰海岸ジオパークの代表的な景観、鳥取県岩美町の千貫松島です。花こう岩の島にクロマツが生えています。鳥取城の城主が「この岩と松を庭園に運び込めた者に銀千貫を与えよ」と言わしめた景色でもあります。どうしてクロマツが海岸に多いのでしょうか。クロマツが生育する環境は、砂丘や花こう岩という岩石で成り立っています。決して栄養がよい大地とは言えず、さらに風や塩の影響もあり植物が生育するには厳しい環境ですが、そこには秘密があります。松にはとても強い味方がいるのです。それは菌根菌きんこんきんです。菌根菌とは、植物の根に共生する菌類です。シイタケなどは腐生菌ふせいきんで木材を分解して栄養にしていますが、菌根菌は土壌から窒素やリンなどの無機物や水分を吸収し、それを植物に届けます。植物も光合成で得られた糖分を菌根菌に与えます。お互いに持ちつ持たれつもちつもちたれつの関係です。日本のトリュフしゅうろといわれるショウロしょうろ（松露）というキノコはご存知でしょうか。ショウロも菌根菌でクロマツなどと共生しています。クロマツの植林の際にはショウロの菌も散布します。秋の味覚の王様と言え、マツタケ（松茸）ですが、こちらはアカマツ林などを好みます。ただし、松があればこれらのキノコが採れるというわけではなく、下草などの手入れをしないと栄養が豊富になり、他のキノコの生育が促され、負けてしまいます。ショウロやマツタケには好ましくない土壌となります。

また、写真5は、熊井浜という砂浜から内陸を映した写真です。右側は花こう岩が分布する地域（←→）で松が生育していますが、左側は凝灰角礫岩ぎょうかいかくれきがんが分布する地域（←→）で照葉樹しょうようじゆが多くなります。このように地質によっても生育する樹木が変わってきます。



写真3. 千貫松島



写真4. 松露
鳥取市内で採取されたもの



写真5. 鳥取県岩美郡 熊井浜

4. 植生と風土

地質や植生は地域の風土にもつながっていきます。かつて、松露は春と秋、松茸は秋の風物詩でした。人々が松林を活用・手入れをする暮らしがあり、松林も人々にキノコという恩返しをしていました。人々は大地と会話して恵みをいただいていたわけです。当館のある岩美町でもひと昔前までは、秋には松茸を採りに行くという話をよく聞いたそうです。松露は秋にも収穫できますが、旬は春のようです。晩春の季語でもあり、身近なキノコであったことがわかります。現在、鳥取砂丘でも松露を復活させようと環境整備活動が行われています。いつの日か鳥取産の松露を食べてみたいですね！

ホームページは
こちら！



5. 今年度の「海と大地の自然館」の普及講座（詳しくは、当館のホームページに掲載）

このようにクリスマス飾りづくり講座では、大地と植物とのつながりを紹介しました。そして、今年度も当館では様々な普及講座を予定しています。ジオハイキングや生きもの観察会、天体観望会、ものづくり講座、大地とのふれあい講座などもりだくさんです。隠されたジオパークの面白さ、楽しみ方を紹介していきます。どの講座も担当者のジオパークや大地、生きものへの愛はねあがこめられた企画です！ このニュースレターと絡んで5/22(日)のジオハイキングでは、当館から羽尾岬までのトレイルコースを歩きながら地形・地質の違いによる植物相の違いを観察していきます。是非、現地で一緒に体感してみましょう！（笠木）

《主な参考資料》 小川 真『きのこの教え』（岩波新書）